

2012/1/19

柏の景気情報（平成23年12月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成23年12月分）

○ 調査期間 : 平成23年12月21日 ~ 12月26日

○ 調査対象 : 柏市内171事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	171	102	59.6%
建設	47	25	53.2%
製造	36	25	69.4%
卸・小売	49	32	65.3%
サービス	39	20	51.3%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 \text{ 増加他の回答割合} - 3 \text{ 減少他の回答割合}$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成23年12月の調査結果のポイント】

◀ 業況DIは横ばい ホットスポットの影響などで回復の勢いが弱まる ▶

○12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲31.3(前月水準▲30.7となり、マイナス幅が▲0.6ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲32.0(同▲39.1)、卸小売業▲37.5(同▲44.4)、サービス業▲25.0(同▲26.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲28.0(同▲7.6)であり、マイナス幅が▲20.4ポイントと大幅に拡大した。

【建設業】からは、「業況全く先行き不明。極度の職人不足となっています。引き続き適正かどうかの判断がむずかしくまだ異常な状態」(石工れんがタイルブロック工事業)、「震災の影響による修繕工事もあり、工事件数はあったが、利益が出るものはあまりなかった」(塗装工事業)、「原発事故による作業の遅れがある」(塗装工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「福島原発関連の受注は継続的にあり、自治体向けの放射能対策案件も出始めてきた」(特殊産業用機械)、「円高及びEU諸国の金融不安があり先行き見通しが見えない。また、販売価格についてもユーザーからの値引き要請があり検討中である」(一般産業用機械・装置製造業)、「今夏より各資材価格の値上げ要請が各メーカーより有りの為、利益圧迫している。材料価格アップ分を製品単価に上乘せたいが、逆に客先からは値下げ交渉を受ける」(紙製容器製造業)などのコメントがあった。

【卸小売業】からは、「12月度は月初にレイソルがJ1優勝を果たしセールの効果が大きく寄与した。お歳暮商戦は立ちあがり1週間遅らせたものの、プラス5.3%の売上。前半プラスとなり好調に推移」(百貨店)、「ようやく柏市も放射能の除染に関して本格的に押し進めて行くようで一安心しています。相変わらず大手企業が低価格路線で営業しかけてくるので、周りの店舗は大きく影響を受けているようです。今後、電気代が上がると思われるのでそちらの対応も進めていかなければなりません」(各種食料品小売業)、「個人消費低迷がまだまだ続いているのかクリスマスも含め客単価が減少しています」(菓子・パン小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「東北地方生産品を扱っているが価格の上昇と欠品などがあり安定供給されていない点が不満」(酒場・ビヤホール)、「客室稼働率、忘年会件数は例年並みで推移したが、ともに単価が振るわず」(ホテル)、「賃貸需要は震災前と後では不変。レイソルの優勝を機会にイメージアップを全国に発信できる企画が必要ではないか」(不動産賃貸・管理業)などの声が寄せられた。

◎ホットスポット、放射能の影響

各業種から、「ホットスポットの影響で人口減。特に転入者の減少、転出者の増加の問題で不動産取引への影響がどんどん大きくなっており集客及び受注にマイナスが出ている」(一般土木建築工事業)、「ホットスポットの影響で今月初めにネット通販の店舗を撤退させた。先週より放射線量を測定、鶏肉、卵、梱包用品当店のすべての商品を測定、納品するようにしました。X線、β線、γ線を計測してブログでも公表しています」(食肉小売業)、「今年は少し変わった動きをしており、レイソル効果も期待していましたが原発からの放射能の影響と景気低迷から取引が厳しい状況です。野菜果実とも価格のばらつきが有り、全体的にも減少傾向です。今後も風評被害を少なくするために安全安心の取引に努めて行きます」(食料・飲料卸売業)、「原発の風評被害は地価下落、集客の減少になっています」(不動産管理業)などのコメントが寄せられた。

◎売上・受注減少

各業種から、「大手取引先の量受注が減ったため、売上額が減少」(内装工事業)、「円高により、輸出関連製品の受注が全く回復しない」(ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製品製造業)、「得意先の設備計画等が大幅な見直しにより、受注が減少方向です。既存取引先外の営業活動が可能か検討中です」(金属加工機械製造業)、「小売業の場合は12月は突出して売れるのだが、ここ数年他の月と全く変わらない。本年も前半は暖かさのせいもあったが全く不調。コート類は特に悪い。新しいトレンドが出なければ買い替え需要が見込めない。ボーナス後多少の改善があったもののトータルでは落ち込む」(婦人・子供服小売業)などのコメントが寄せられた。

◎景気・業況悪化

各業種から、「景気の停滞でますます採算は悪化している。明るい兆しが見られず末端にいる企業の努力が限界にきている」(電気工事業)、「景気が改善しない。設備導入に関して顕著な変化は見えてこない」(その他の機械・同部品製造業)、「業況は特に東葛地域は悪い」(家庭用機械器具小売業)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
7月	▲28.1	▲20.6	▲24.0	▲43.2	▲15.7
8月	▲35.5	▲23.3	▲37.0	▲54.0	▲20.8
9月	▲36.1	▲16.6	▲60.8	▲45.4	▲22.7
10月	▲25.0	▲10.7	▲32.0	▲34.2	▲19.0
11月	▲30.7	▲7.6	▲39.1	▲44.4	▲26.3
12月	▲31.3	▲28.0	▲32.0	▲37.5	▲25.0
見通し	▲26.4	▲12.0	▲16.0	▲40.6	▲35.0

見通しは今年の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成23年12月の業況についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲31.3(前月水準▲30.7となり、マイナス幅が▲0.6ポイント拡大した。

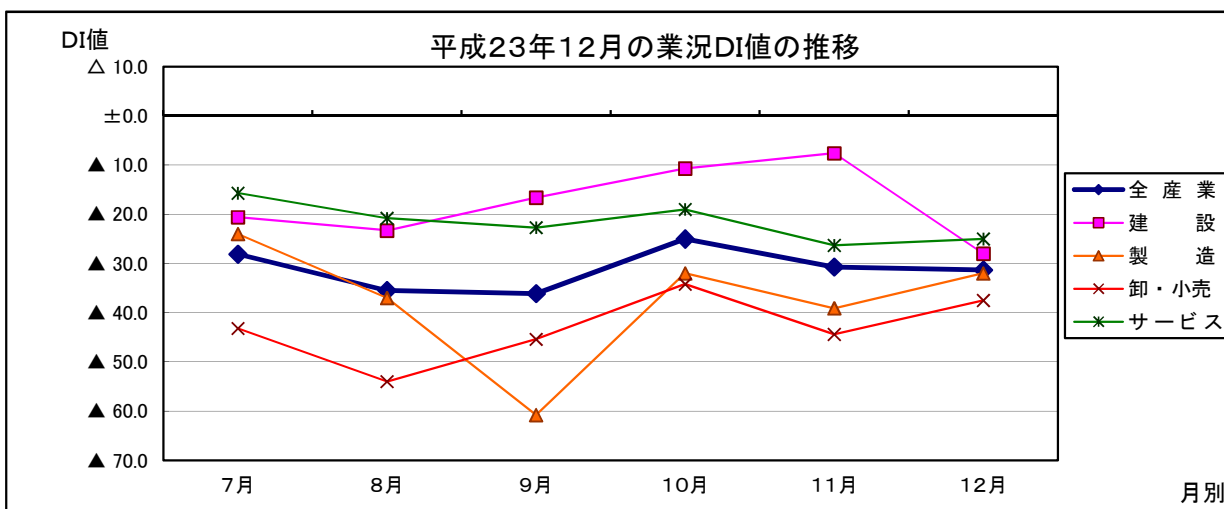
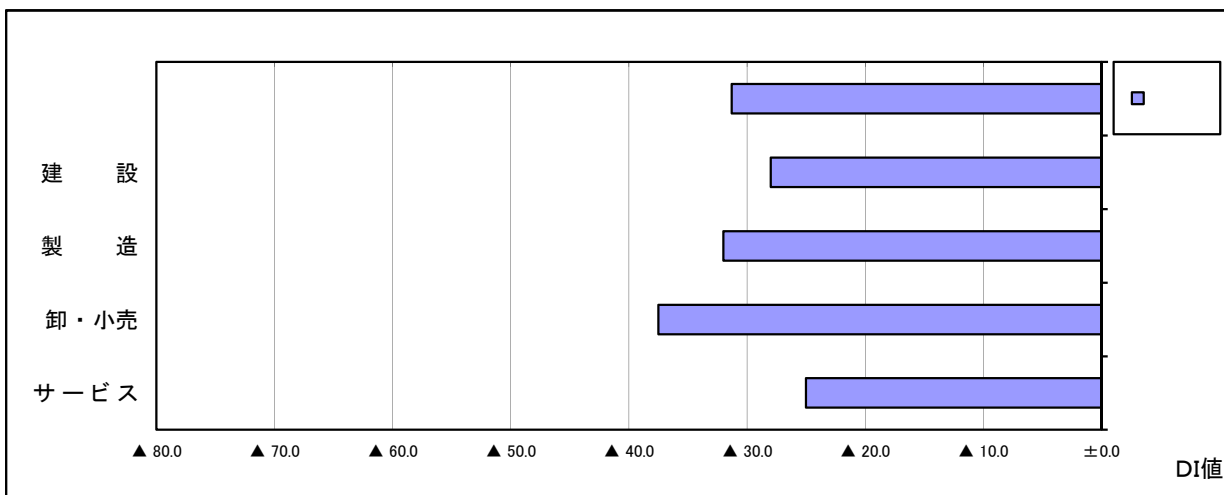
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲32.0(同▲39.1)、卸小売業▲37.5(同▲44.4)、サービス業▲25.0(同▲26.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲28.0(同▲7.6)であり、マイナス幅が▲20.4ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲26.4(前月水準▲20.1)となり、マイナス幅が▲6.3ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲16.0(同▲17.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲35.0(同▲15.7)、卸小売業▲40.6(同▲33.3)、建設業▲12.0(同▲7.6)である。

平成23年12月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲28.1	▲35.5	▲36.1	▲25.0	▲30.7	▲31.3	▲26.4(▲20.1)
建設	▲20.6	▲23.3	▲16.6	▲10.7	▲7.6	▲28.0	▲12.0(▲7.6)
製造	▲24.0	▲37.0	▲60.8	▲32.0	▲39.1	▲32.0	▲16.0(▲17.3)
卸・小売	▲43.2	▲54.0	▲45.4	▲34.2	▲44.4	▲37.5	▲40.6(▲33.3)
サービス	▲15.7	▲20.8	▲22.7	▲19.0	▲26.3	▲25.0	▲35.0(▲15.7)



【平成23年12月の売上についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲12.7(前月水準▲28.8)となり、マイナス幅が16.1ポイント縮小した。

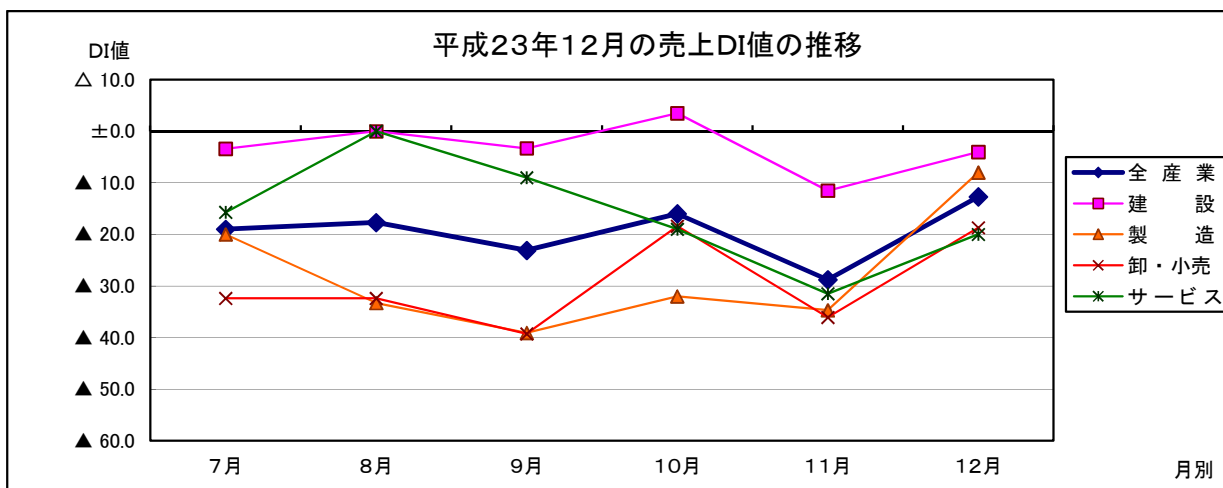
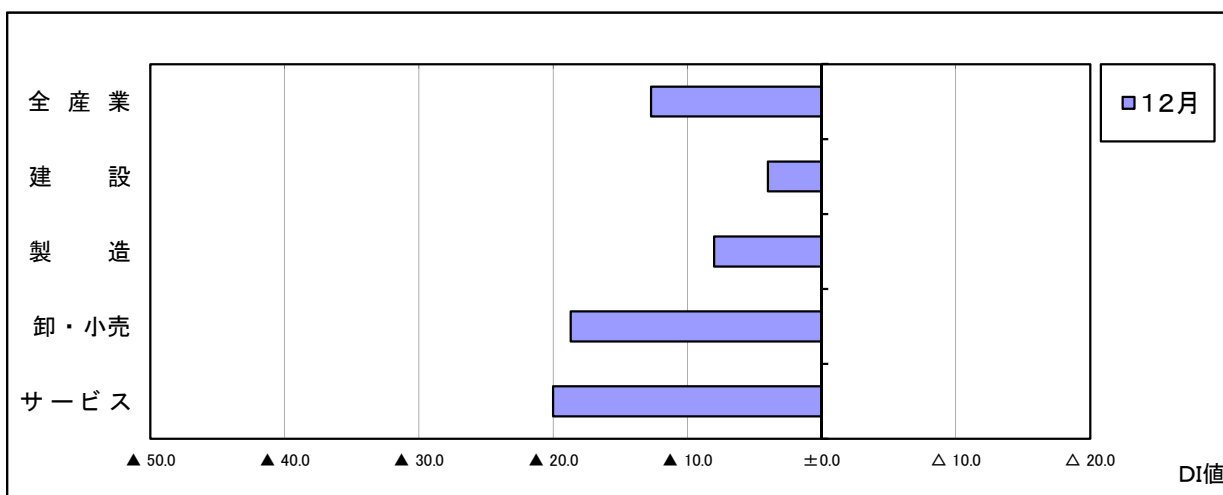
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲8.0(同▲34.7)、卸小売業▲18.7(同▲36.1)、サービス業▲20.0(同▲31.5)、建設業▲4.0(同▲11.5)である。特に、製造業はマイナス幅が26.7ポイントと大幅に縮小した。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲16.6(前月水準▲17.3)となり、マイナス幅が0.7ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲12.0(同▲21.7)である。変わらない見通しの業種は、建設業±0.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲25.0(同▲15.7)、卸売業▲28.1(同▲27.7)である。

平成23年12月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲19.0	▲17.7	▲23.1	▲16.0	▲28.8	▲12.7	▲16.6(▲17.3)
建設	▲3.4	±0.0	▲3.3	△3.5	▲11.5	▲4.0	±0.0(±0.0)
製造	▲20.0	▲33.3	▲39.1	▲32.0	▲34.7	▲8.0	▲12.0(▲21.7)
卸・小売	▲32.4	▲32.4	▲39.3	▲18.4	▲36.1	▲18.7	▲28.1(▲27.7)
サービス	▲15.7	±0.0	▲9.0	▲19.0	▲31.5	▲20.0	▲25.0(▲15.7)



【平成23年12月の採算についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲30.3(前月水準▲40.3)となり、マイナス幅が10.0ポイント縮小した。

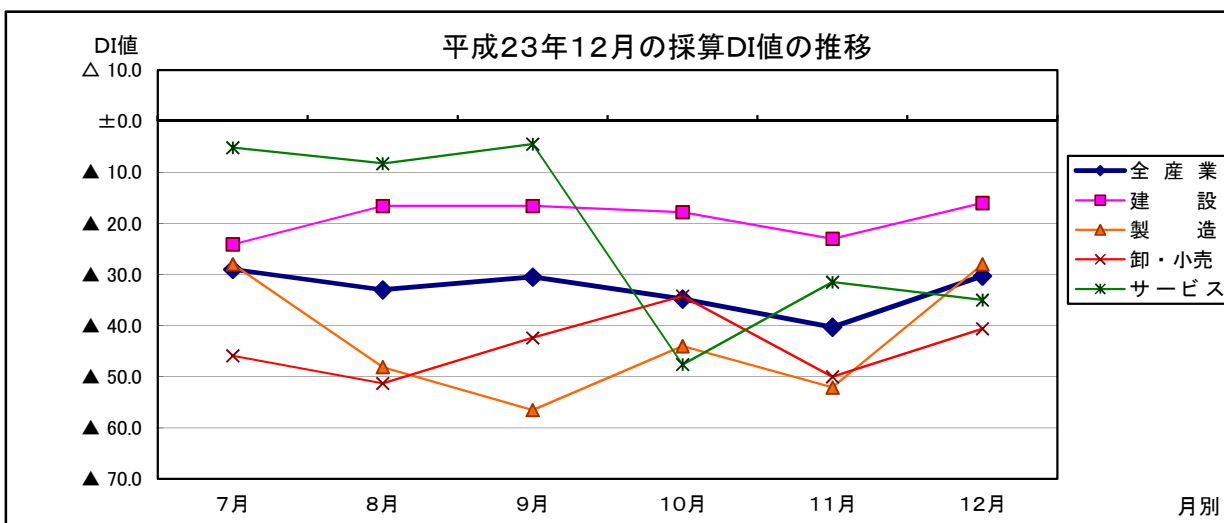
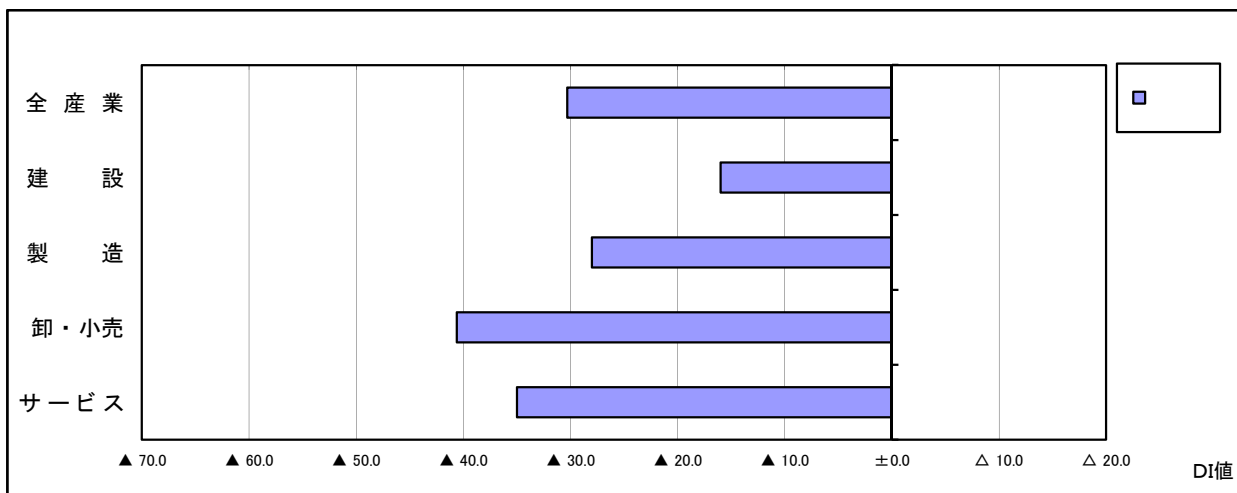
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲28.0(同▲52.1)、卸小売業▲40.6(同▲50.0)、建設業▲16.0(同▲23.0)である。特に、製造業はマイナス幅が24.1ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲35.0(同▲31.5)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲28.4(前月水準▲21.1)となり、マイナス幅が▲7.3ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲16.0(同▲21.7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲40.0(同▲26.3)、卸小売業▲34.3(同▲22.2)、建設業▲24.0(同▲15.3)である。

平成23年12月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲29.0	▲33.0	▲30.5	▲34.8	▲40.3	▲30.3	▲28.4(▲21.1)
建設	▲24.1	▲16.6	▲16.6	▲17.8	▲23.0	▲16.0	▲24.0(▲15.3)
製造	▲28.0	▲48.1	▲56.5	▲44.0	▲52.1	▲28.0	▲16.0(▲21.7)
卸・小売	▲45.9	▲51.3	▲42.4	▲34.2	▲50.0	▲40.6	▲34.3(▲22.2)
サービス	▲5.2	▲8.3	▲4.5	▲47.6	▲31.5	▲35.0	▲40.0(▲26.3)



【平成23年12月の仕入単価についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲31.3(前月水準▲28.8)となり、マイナス幅が▲2.5ポイント拡大した。

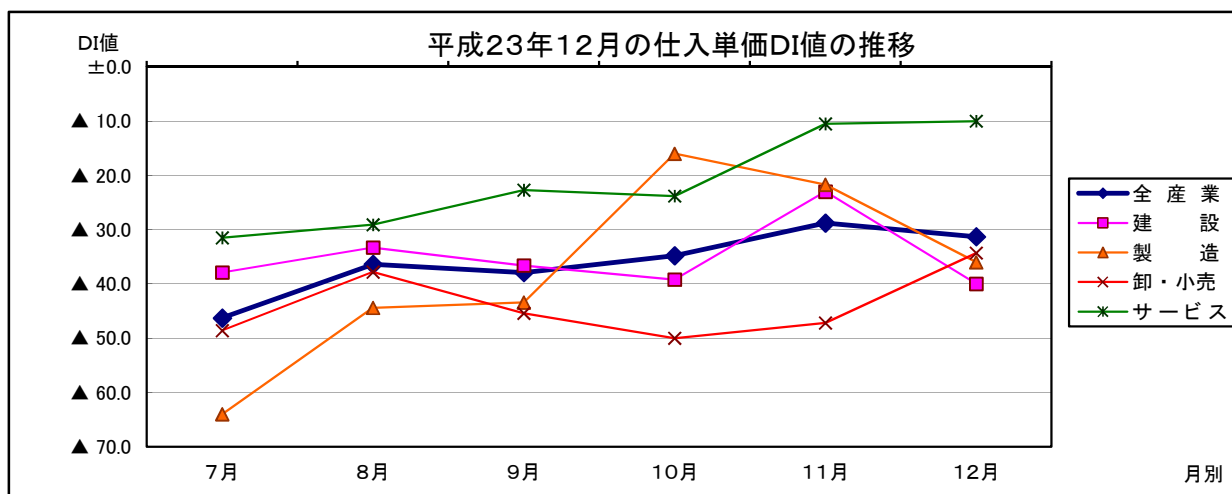
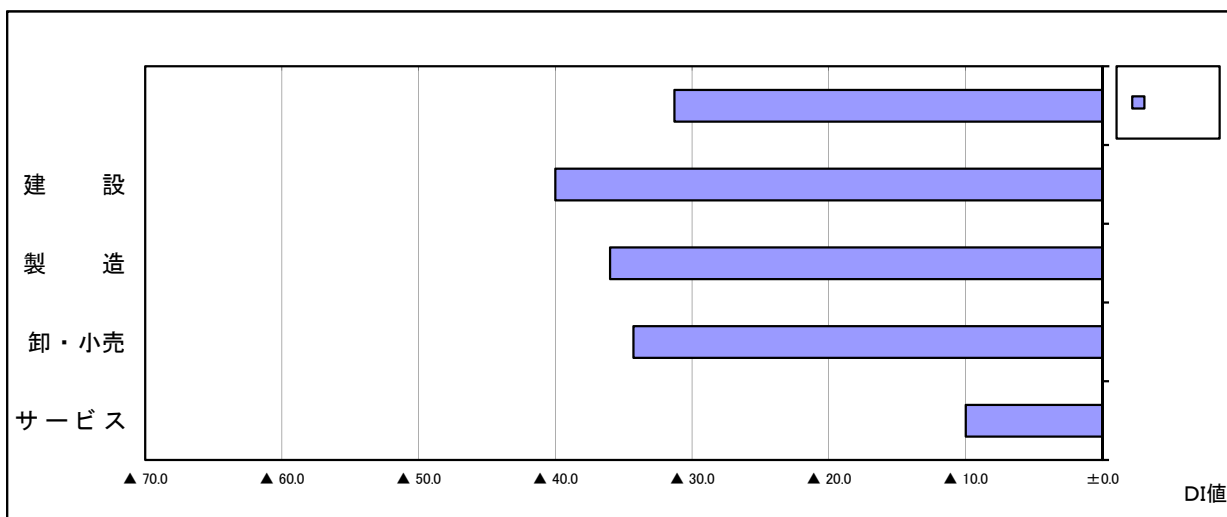
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲34.3(同▲47.2)、サービス業▲10.0(同▲10.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲40.0(同▲23.0)、製造業▲36.0(同▲21.7)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲29.4(前月水準▲21.1)となり、マイナス幅が▲8.3ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業▲10.0(同▲10.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲28.0(同▲4.3)、建設業▲32.0(同▲23.0)、卸小売業▲40.6(同▲36.1)である。特に、製造業はマイナス幅が▲23.7ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成23年12月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲46.3	▲36.4	▲37.9	▲34.8	▲28.8	▲31.3	▲29.4(▲21.1)
建設	▲37.9	▲33.3	▲36.6	▲39.2	▲23.0	▲40.0	▲32.0(▲23.0)
製造	▲64.0	▲44.4	▲43.4	▲16.0	▲21.7	▲36.0	▲28.0(▲4.3)
卸・小売	▲48.6	▲37.8	▲45.4	▲50.0	▲47.2	▲34.3	▲40.6(▲36.1)
サービス	▲31.5	▲29.1	▲22.7	▲23.8	▲10.5	▲10.0	▲10.0(▲10.5)



【平成23年12月の従業員についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、0.9(前月水準▲1.9)となり、プラス方向へ2.8ポイント拡大した。

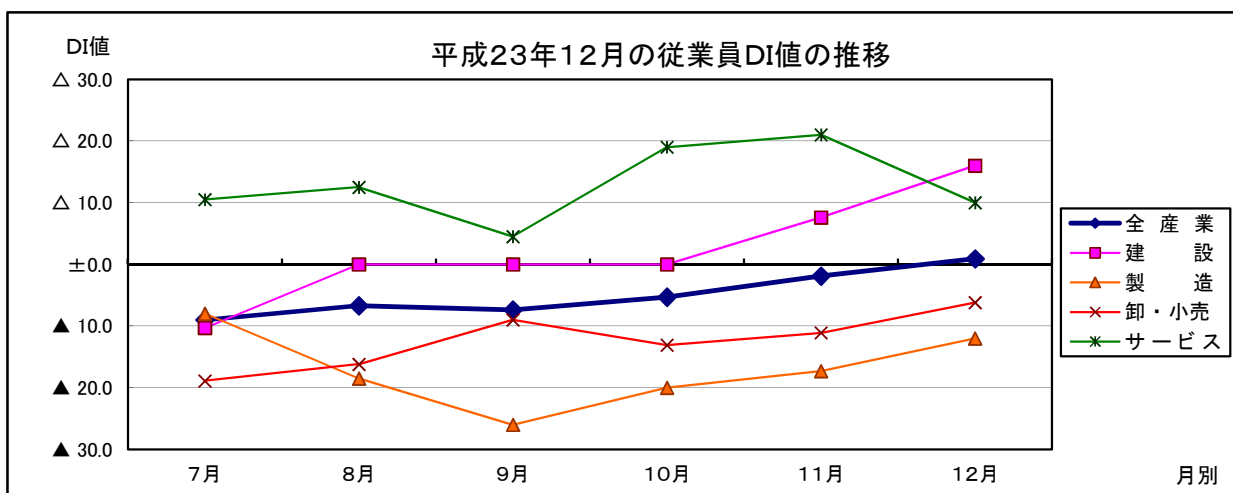
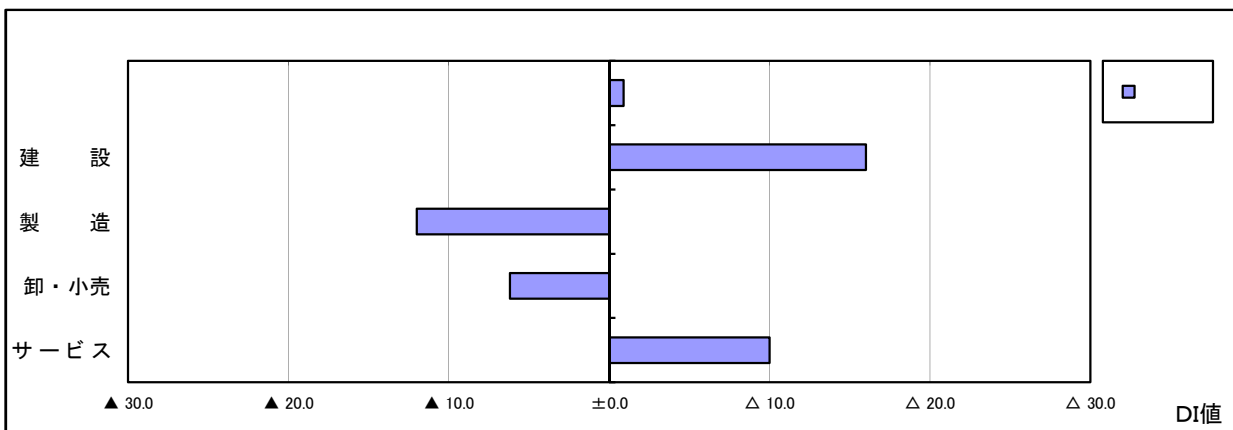
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、建設業16.0(同7.6)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲12.0(同▲17.3)、卸小売業▲6.2(同▲11.1)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業10.0(同21.0)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、2.9(前月水準▲3.8)となり、プラス方向へ、6.7ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、建設業20.0(同±0.0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲8.0(同▲21.7)、卸小売業▲3.1(同▲5.5)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業5.0(同15.7)である。

平成23年12月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲9.0	▲6.7	▲7.4	▲5.3	▲1.9	△0.9	△2.9(▲3.8)
建設	▲10.3	±0.0	±0.0	±0.0	△7.6	△16.0	△20.0(±0.0)
製造	▲8.0	▲18.5	▲26.0	▲20.0	▲17.3	▲12.0	▲8.0(▲21.7)
卸・小売	▲18.9	▲16.2	▲9.0	▲13.1	▲11.1	▲6.2	▲3.1(▲5.5)
サービス	△10.5	△12.5	△4.5	△19.0	△21.0	△10.0	△5.0(△15.7)



【平成23年12月の資金繰りについての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲13.7(前月水準▲12.5)となり、マイナス幅が▲1.2ポイント拡大した。

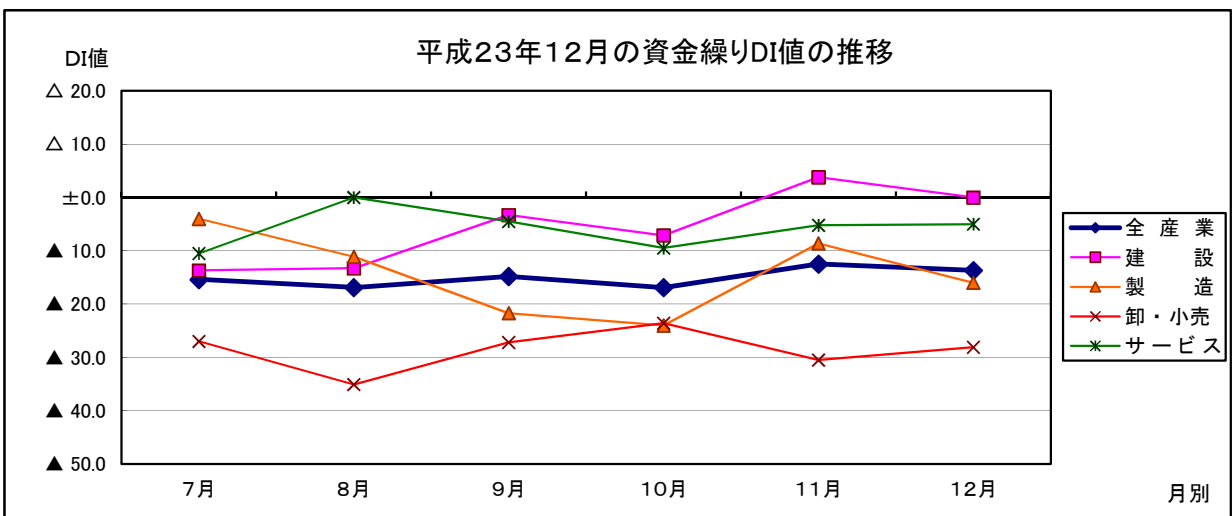
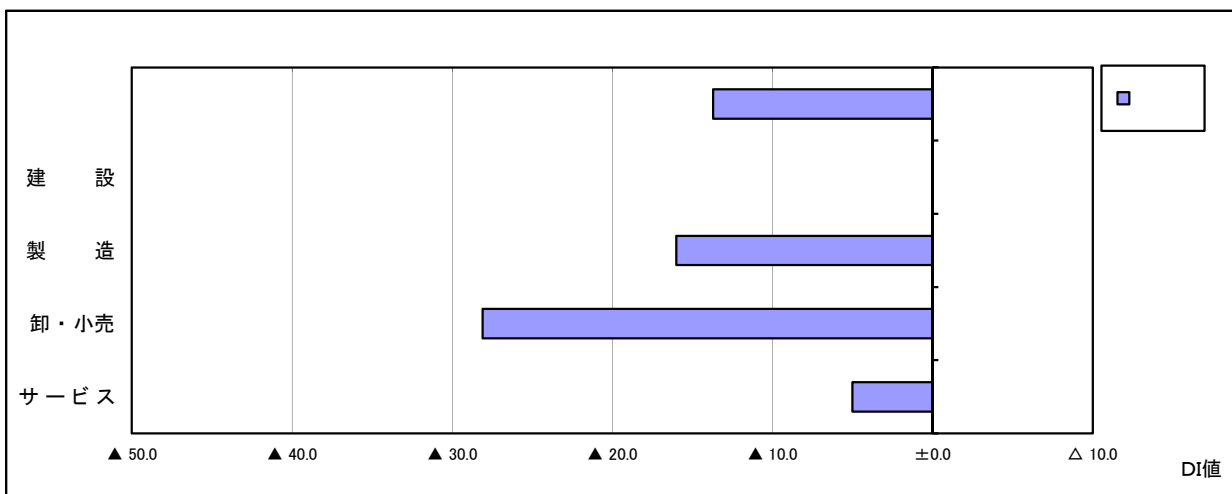
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲28.1(同▲30.5)、サービス業▲5.0(同▲5.2)である。プラス幅が縮小した業種は、建設業±0.0(同3.8)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲16.0(同▲8.6)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲14.7(前月水準▲14.4)となり、マイナス幅が▲0.3ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲8.0(同▲26.0)、サービス業▲15.0(同▲15.7)である。変らない見通しの業種は、建設業±0.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲31.2(同▲16.6)である。

平成23年12月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成23年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲15.4	▲16.9	▲14.8	▲16.9	▲12.5	▲13.7	▲14.7(▲14.4)
建設	▲13.7	▲13.3	▲3.3	▲7.1	△3.8	±0.0	±0.0(±0.0)
製造	▲4.0	▲11.1	▲21.7	▲24.0	▲8.6	▲16.0	▲8.0(▲26.0)
卸・小売	▲27.0	▲35.1	▲27.2	▲23.6	▲30.5	▲28.1	▲31.2(▲16.6)
サービス	▲10.5	±0.0	▲4.5	▲9.5	▲5.2	▲5.0	▲15.0(▲15.7)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 12.7	▲ 16.6	▲ 30.3	▲ 28.4	▲ 31.3	▲ 29.4	△ 0.9	△ 2.9
建設	▲ 4.0	±0.0	▲ 16.0	▲ 24.0	▲ 40.0	▲ 32.0	△ 16.0	△ 20.0
製造	▲ 8.0	▲ 12.0	▲ 28.0	▲ 16.0	▲ 36.0	▲ 28.0	▲ 12.0	▲ 8.0
卸・小売	▲ 18.7	▲ 28.1	▲ 40.6	▲ 34.3	▲ 34.3	▲ 40.6	▲ 6.2	▲ 3.1
サービス	▲ 20.0	▲ 25.0	▲ 35.0	▲ 40.0	▲ 10.0	▲ 10.0	△ 10.0	△ 5.0

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 31.3	▲ 26.4	▲ 13.7	▲ 14.7
建設	▲ 28.0	▲ 12.0	±0.0	±0.0
製造	▲ 32.0	▲ 16.0	▲ 16.0	▲ 8.0
卸・小売	▲ 37.5	▲ 40.6	▲ 28.1	▲ 31.2
サービス	▲ 25.0	▲ 35.0	▲ 5.0	▲ 15.0

【平成23年12月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況		業種
建設	業況全く先行き不明。極度の職人不足となっています。引き続き適正かどうかの判断がむずかしくまだ異常な状態	先行き不透明 人手不足	石工れんがタイルブロック工事業
	景気の停滞でますます採算は悪化している。明るい兆しが見られず末端にいる企業の努力が限界にきている	景気停滞 採算悪化 先行き不透明	電気工事業
	震災の影響による修繕工事もあり、工事件数はあったが、利益が出るものはあまりなかった	震災の影響	塗装工事業
	現在福島県内各所で除染テストを行っております。1月以降に方向性が示されてくる予定です	除染	塗装工事業
	材料価格高騰、施行単価下落により、下請け業者の倒産整理で減少、また職人も安い賃金でやっていけず転職したりで少ない状況、人手不足状態が続いている。また震災復旧工事の方が単価がよいためやはり人手不足。その結果夏以降多数の現場の進行が遅れている。新規物件も受ける業者が少なくなっており、ゼネコンも苦戦しているようだが単価は相変わらず安く提示してくる。そこそこ仕事はあるものの、単価的にはとても受けられない	材料価格高騰 単価下落 人手不足	その他の職別工事業
	ホットスポットの影響で人口減。特に転入者の減少、転出者の増加の問題で不動産取引への影響がどんどん大きくなっており集客及び受注にマイナスが出ている	ホットスポットの影響 人口減少 受注減少	一般土木建築工事業
	震災、ホットスポットの影響による住宅建設の件数減少、人口減少	ホットスポットの影響 受注減少 人口減少	ガス業
	原発事故による作業の遅れがある	原発事故 作業遅れ	塗装工事業
	大手取引先の量受注が減ったため、売上額が減少。一般家庭の量張り替えや裏返し等の工事は好調。量小物の販売は減少。毎年1～2月は受注が少なくなるので小物販売を盛り上げて行きたい	売上減少	内装工事業
	円高により、輸出関連製品の受注が全く回復しない	円高 受注停滞	ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製品製造業
今は来年に向けて海外での変化が良い悪い両面が出てくるものと思われる。良い面は復興需要、タイへの支援に伴う生産増加。悪い面は中国の不安定感、北朝鮮問題への方策など	海外の変化 復興需要 タイ支援	金属素形材製品製造業	
営業人員を増やして活動中。現在計画には遠いものの少しずつ受注が来ている状態です	人員増加 受注微増	電子部品・デバイス製造業	
福島原発関連の受注は継続的にあり、自治体向けの放射能対策案件も出始めてきた	原発受注 放射能対策	特殊産業用機械	
景気が改善しない。設備導入に関して顕著な変化は見えてこない	景気停滞 設備導入	その他の機械・同部品製造業	
ウイスキーブーム(ハイボール)人気は変わらず好調。焼酎については、甲類、乙類ともに減少傾向。	ウイスキー好調 焼酎減少	酒類製造業	
昨年レイソルがJ1優勝し柏市民に感動を与えてもらいましたが、柏市全体での経済的効果はどうだったでしょうか。当社にはそこそこ仕事がありましたが予想していたほど続かず一過性のものでした。年々売り上げは落ち込んでいますがそれ以上に利益率が悪くなっている事が問題です。市の仕事もほとんど入札になり単価の勝負となってしまい、利益も減少の一途です。地場産業育成、品質確保のためある程度の業者間の話し合いが必要かと思いますがそれ自体が談合に通じてしまう事も事実ですので自助努力しかないのかなと思っています。	レイソル優勝 経済効果 利益率悪化 地場産業育成	印刷業	
得意先の設備計画等が大幅な見直しにより、受注が減少方向です。既存取引先外の営業活動が可能か検討中です	受注減少	金属加工機械製造業	

【平成23年12月の業種別業界内トピックス】

製造	<p>事態は数カ月前となら変わりはない。円高の問題が解決しない限りは景気の上昇は望めない。EUの信用不安によりユーロは安くなってその分円がまた上昇してしまう、北朝鮮の問題で韓国ウォンが下落し基軸通貨としてのドルが買われているようだが、相対的に円も上昇し、ドル/円は変化がない。今後北朝鮮情勢により韓国・アメリカ・中国がどのような動きをするかによって膠着した現状がどのように変化するかを見極めたい。経済に与える影響についても計り知れないと考えている。製造業としては生き残りをかけてタイやベトナムなどへの生産拠点の移管が進んでいるが、この動きを行政がバックアップすることが果たして正しいことなのだろうか？製造業におけるワーカーレベルの作業員がいらない、国内は管理職だけで生産は海外工場という図式が進めば必然的に失業率は上昇するだろう。メーカー自体は生き残れるかもしれないが、今まで現場で生産にかかっていた人々の消費がなくなればますます景気は落ち込まざるを得ない。みんながみんなサービス業で生きていけるわけではない。ユニクロとドコモとすきやでは経済はまわらない。貿易赤字が続いているが日本が得意とする工業製品が円高により輸出できないのだから当たり前の話で円高及びEU諸国の金融不安があり先行き見通しがつかない。また、販売価格についてもユーザーからの値引き要請があり検討中である</p>	<p>円高 EU金融不安 ウォン下落 東南アジア移管 失業率上昇 景気落ち込み 貿易赤字</p>	<p>その他の金属製品製造業</p>
	<p>引き続き、米国の景気動向、欧州の金融の先行き、円高の推移等注視が必要。</p>	<p>円高 EU金融不安 値引き要請 米国景気動向 EU金融不安 円高</p>	<p>一般産業用機械・装置製造業</p>
	<p>少しづつ仕事が増えてきた気配がある</p>	<p>回復感</p>	<p>建築用・建設用金属製品製造業</p>
	<p>タイ洪水による特需があり、今期後半は好調。しかしながら、依然として国内の設備投資は伸び悩んでいる状況で、来期は再びリーマン・ショック後の水準に戻る見込み。</p>	<p>タイ洪水特需 設備投資伸び悩み 業況後退</p>	<p>電子応用装置製造業</p>
	<p>12月は売上が上がったがその先はまだ見えない状況が続きます</p>	<p>売上上昇 先行き不透明</p>	<p>その他の機械・同部品製造業</p>
	<p>今夏より各資材価格の値上げ要請が各メーカーより有りの為、利益圧迫している。材料価格アップ分を製品単価に上乘せたいが、逆に客先からは値下げ交渉を受ける。</p>	<p>材料価格値上げ 利益圧迫 価格転嫁</p>	<p>紙製容器製造業</p>
	<p>部材の価格上昇が止まらず物によっては2割～高騰。売上に大きく影響</p>	<p>材料価格値上げ</p>	<p>一般産業用機械・装置製造業</p>
	<p>小売業の場合は12月は突出して売れるのだが、ここ数年他の月と全く変わらない。本年も前半は暖かさのせいもあったが全く不調。コート類は特に悪い。新しいトレンドが出なければ買い替え需要が見込めない。ボーナス後多少の改善があったもののトータルでは落ち込む</p>	<p>売上停滞 衣料品不調</p>	<p>婦人・子供服小売業</p>
	<p>お正月のおせちの予約は好調。例年よりも家で過ごす人が多い様子。クリスマス関連も3連休効果で予約が多かった</p>	<p>正月商戦好調 クリスマス好調</p>	<p>その他の各種商品小売業</p>
	<p>12月度は月初にレイソルがJ1優勝を果たしセールの効果が大きく寄与した。お歳暮商戦は立ちあがり1週間遅らせたものの、プラス5.3%の売上。前半プラスとなり好調に推移</p>	<p>レイソル優勝 セール効果 お歳暮商戦</p>	<p>百貨店</p>
<p>12月初旬は悪天候に加え、昨年1日から開催した抽選会を今年は10日からに会期を遅らせたことから、低調な出足となったが、4日にレイソル祝勝会による集客効果から売上高は盛り返しをみせた。以降、先月下旬からの気温低下により徐々に動きだしていたコートなどの重衣料の動きが本格化したことや、10日から開催した抽選会などの販促策が後押しし、売上高は前年を上回る推移となった。クリスマス商戦はギフトなどの提案を強化するほか、月末に掛けての年末商戦と接客を強化し売上に繋げてい</p>	<p>天候の影響 レイソル優勝 衣料品好調 イベント 売上高上昇 クリスマス商戦</p>	<p>その他の各種商品小売業</p>	
<p>ようやく柏市も放射能の除染に関して本格的に推し進めて行くようで一安心しています。相変わらず大手企業が低価格路線で営業しかけてくるので、周りの店舗は大きく影響を受けているようです。今後、電気代が上がると思われるのでそちらの対応も進めていかなければなりません。</p>	<p>除染 低価格路線 地元店舗への影響 電気代上昇</p>	<p>各種食料品小売業</p>	
<p>ホットスポットの影響で今月初めにネット通販の店舗を撤退させた。先週より放射線量を測定、鶏肉、卵、梱包用品当店のすべての商品を測定、納品するようにしました。X線、β線、γ線を計測してブログでも公表して個人消費低迷がまだまだ続いているのかクリスマスも含め客単価が減少</p>	<p>ホットスポットの影響 放射線量測定</p>	<p>食肉小売業</p>	
<p>卸小売業</p>	<p>個人消費低迷 客単価減少</p>	<p>菓子・パン小売業</p>	

【平成23年12月の業種別業界内トピックス】

	高齢化の中長期景気悪化の年越し。新しい年に明るい景気を望むのは難しいようだ。消費者の生活も変わってきており商店会の小売業者が努力をしても客は離れる事が多い。 12月に入り、寒さも本格的になり食肉・焼肉の需要が増えたように思う。仕入も安定してきて客先への納品も滞りない。売り上げが期待できそう	高齢化 生活の変化	食肉小売業
		食肉好調 仕入安定	農畜産物・水産物卸売業
	例年だと正月商材等で活性化、また12月中旬より野菜の消費も増える頃でもあります。しかし今年は少し変わった動きをしており、レイソル効果も期待していましたが原発からの放射能の影響と景気低迷から取引が厳しい状況です。野菜果実とも価格のばらつきが有り、全体的にも減少傾向です。今後も風評被害を少なくするために安全安心の取引に努めていきます	正月商戦好調 野菜消費増加 レイソル優勝 放射能の影響 景気低迷 風評被害	食料・飲料卸売業
	生コンの売上は一服感もあり、1、2月は減少傾向にあると思われ、産廃の売り上げは順調。12月は賞与月なので業績は変わらない。仕入単価は去年7月に値上がったので、前年同月を比較すると上昇だがそれ以外には変化はないと思われる	生コン減少 仕入単価上昇	建築材料卸売業
	タイの洪水の為部品供給が間に合わず納車が来年にずれ込み売上げが減少しました。12月20日登録分からエコカー対象車に補助金が来年1月までスタートされましたのでこれからの注文が昨年以上に増えると思われる	タイ洪水特需 売上減少 エコカー補助金	自動車小売
	灯油の配送要員として季節労働者を採用し万全の用意をしても1回の巡回件数はなかなか増えず経費の割に合わない。なんとか頑張っているがあと10%くらい利益が欲しい	季節労働者採用	燃料小売業
	年末で一段落というところ。来年に向けて段取りが始まった様子が見受けられる		一般機械器具卸売業
	業況は特に東葛地域は悪い	業況悪化	家庭用機械器具小売業
	東北地方生産品を扱っているが価格の上昇と欠品などがあり安定供給されていない点不満。宴会の予約が多数あったがHP等で良い日程が先行して埋まり定連のお客様には迷惑をかける事があった	東北地方生産品 価格上昇 供給不安定	酒場・ビヤホール
	忘年会予約が昨年より少ない、一人単価も落ちる。風評被害の為か 地産地消を歌う当店は厳しい。地元野菜を売る直売場に惣菜を卸しているがセシウム問題から売り上げ4割減。	予約減少 単価下落 風評被害 売上減少	食堂・レストラン
	宿泊は、外人客(JICA、財務省研修)の戻り、スポーツ大会の開催により団体予約が増え稼働・売上げ共に増、団体料金(値引)、inetからの予約が多く、原価、集客手数料が増え諸経費の売上構成比は上がったが対予算・利益ともに徐々に予算達成。宴会は、震災による開催を取り止めていた経費が余っているのか、一人単価、件当たり人数もアップし、件数は昨対で落とすものの売上、利益共に対予算の達成となる	外国人客戻り 稼働率増加 インターネット増加 予算達成 単価上昇	ホテル
	客室稼働率、忘年会件数は例年並みで推移したが、ともに単価が振るわず。	客単価不振	ホテル
サービス業	従業員不足の為生産が減少し全てがマイナスになる	従業員不足 利益減少	食堂・レストラン
	年末年始の旅行者数は前年比増1~3月の動向にも期待	旅行者増加	旅行業
	原発事故の影響で不動産業界は賃貸も売買も仕事面で最悪の状態です	ホットスポットの影響 業況悪化	不動産代理業・仲介業
	原発の風評被害は地価下落、集客の減少になっています	風評被害 地価下落	不動産管理業
	今回は放射能問題で当社も不動産分権のリスク分散ということを社内で検討した。柏のみならず全国海外への分散は資金も含め分散を考えて行かなくてはいけない	ホットスポットの影響 リスク分散	不動産賃貸業
	賃貸需要は震災前と後では不変。レイソルの優勝を機会にイメージアップを全国に発信できる企画が必要ではないか	賃貸需要不変 レイソル優勝 イメージアップ	不動産賃貸・管理業
	新年迎えるも、年度末に向けての忙しさはあきらかに減少、IT企業の不振はしばらく続くと思われます。すき間事業を検討またはみつげ出さなければ敗退寸前、龍のように直角に昇る経済を期待して夢見てる状況。	仕事量減少 IT業界不振	ソフトウェア業

◎ホットスポット、放射能の影響

- ・ ホットスポットの影響で人口減。特に転入者の減少、転出者の増加の問題で一般土木建築工事業
不動産取引への影響がどんどん大きくなっており集客及び受注にマイナス
が出ている
- ・ 震災、ホットスポットの影響による住宅建設の件数減少、人口減少 ガス業
- ・ ホットスポットの影響で今月初めにネット通販の店舗を撤退させた。先週より 食肉小売業
放射線量を測定、鶏肉、卵、梱包用品当店のすべての商品を測定、納品す
るようになりました。X線、β線、γ線を計測してブログでも公表しています
- ・ 今年は少し変わった動きをしており、レイソル効果も期待していましたが原発 食料・飲料卸売業
からの放射能の影響と景気低迷から取引が厳しい状況です。野菜果実とも
価格のばらつきが有り、全体的にも減少傾向です。今後も風評被害を少なく
するために安全安心の取引に努めて行きます
- ・ 忘年会予約が昨年より少ない、一人単価も落ちる。風評被害の為に 地産 食堂・レストラン
地消を歌う当店は厳しい。地元野菜を売る直売場に惣菜を卸しているがセシ
ウム問題から売り上げ4割減。
- ・ 原発の風評被害は地価下落、集客の減少になっています 不動産管理業
- ・ 今回は放射能問題で当社も不動産分権のリスク分散ということを社内で検 不動産賃貸業
討した。柏のみならず全国海外への分散は資金も含め分散を考えて行かな

◎売上・受注減少

- ・ 大手取引先の畳受注が減ったため、売上額が減少 内装工事業
- ・ 円高により、輸出関連製品の受注が全く回復しない ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム
- ・ 得意先の設備計画等が大幅な見直しにより、受注が減少方向です。既存取 金属加工機械製造業
引先外の営業活動が可能か検討中です
- ・ 小売業の場合は12月は突出して売れるのだが、ここ数年他の月と全く変わ 婦人・子供服小売業
らない。本年も前半は暖かさのせいもあったが全く不調。コート類は特に悪
い。新しいトレンドが出なければ買い替え需要が見込めない。ボーナス後多
少の改善があったもののトータルでは落ち込む
- ・ タイの洪水の為部品供給が間に合わず納車が来年にずれ込み売上げが減 自動車小売
少しました

◎景気・業況悪化


- ・ 景気の停滞でますます採算は悪化している。明るい兆しが見られず末端に 電気工事業
いる企業の努力が限界にきている
- ・ 景気が改善しない。設備導入に関して顕著な変化は見えてこない その他の機械・同部品製造業
- ・ 依然として国内の設備投資は伸び悩んでいる状況で、来期は再びリーマン・ 電子応用装置製造業
ショック後の水準に戻る見込み
- ・ 業況は特に東葛地域は悪い 家庭用機械器具小売業

平成23年12月のCCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲31.3に対し、「CCI-LOBO」が▲34.9で、柏の方がマイナス幅が3.6ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・卸小売業・サービス業で、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲12.7に対し、「CCI-LOBO」が▲24.8で、柏の方がマイナス幅が12.1ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・卸小売業・サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲30.3に対し、「CCI-LOBO」が▲31.4で、柏のほうマイナス幅が1.1ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業で、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業・卸小売業。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲31.3に対し、「CCI-LOBO」が▲23.3で、柏の方がマイナス幅が8.0ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業で10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・製造業・卸小売業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が0.9に対し、「CCI-LOBO」が▲3.8で、柏の方がプラス方向へ4.7ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業・卸小売業。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲13.7に対し、「CCI-LOBO」が▲21.3で、柏の方がマイナス幅が7.6ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業・卸小売業。




平成23年12月の柏の景気天気図






柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較











景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50>DI 25	まあまあ 25>DI 0	不振 0>DI 25	極めて不振 25>DI











業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 31.3	 28.0	 32.0	 37.5	 25.0
CCI LOBO	 34.9	 34.0	 24.8	 42.5	 37.7


売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 12.7	 4.0	 8.0	 18.7	 20.0
CCI LOBO	 24.8	 24.0	 11.0	 32.5	 32.2


採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 30.3	 16.0	 28.0	 40.6	 35.0
CCI LOBO	 31.4	 36.9	 22.3	 35.2	 36.2

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 31.3	 40.0	 36.0	 34.3	 10.0
CCI LOBO	 23.3	 30.9	 32.9	 12.9	 22.1

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 0.9	 16.0	 12.0	 6.2	 10.0
CCI LOBO	 3.8	 8.8	 6.7	 2.0	 1.2

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 13.7	 ±0.0	 16.0	 28.1	 5.0
CCI LOBO	 21.3	 29.4	 11.4	 24.8	 25.9

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測(12月速報)

調査期間：平成23年12月14日～20日

調査対象：全国の414商工会議所が2803業種
組合等にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは足踏み、先行きも慎重な見方が強まる

12月の全産業合計の業況DIは、34.9(前月比+0.6ポイント)と、前月からほぼ横ばい。業況は、マイナス3.5前後で足踏み状態に陥っている。第二次補正予算の執行が遅れていることに加え、超円高の長期化が、輸出の減少や取引先の海外移転加速による受注の減少など、企業経営に悪影響を及ぼしている。

先行きについては、先行き見通しDIが35.8(今月比0.9ポイント)と、来年も足踏み状態が続く見通し。超円高に伴う輸出の減少や取引先による生産・販売拠点の海外移転の加速を懸念する声が多いほか、第二次補正予算の本格的な執行が来春以降になる見通しであり、当面業況の改善が期待できないことから、先行きに対し慎重な見方が強まっている。

産業別にみると、業況DIは、製造業・小売業はマイナス幅が縮小したものの、サービス業はほぼ横ばい、建設

業 卸売業は拡大した

各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「今後、復興の進展に伴い、鉄筋工等の技術者が被災地に流れ、地元の建築労働者が不足することを懸念(一般工事業)」「原発事故により、新規原発の建設が遅延もしくは中止となった。原発施設内の配電盤や制御盤の取付工事について受注見通しがたたない(電気工事業)」「コンクリートや鉄骨など建築資材価格は今後も高止まりする見通し。一方、工事の受注価格は上がっており、利益確保が困難(建築事業)」

【製造業】「タイ洪水の影響がほぼ収束したため、今後は増産体制に移る予定(自動車部品製造業)」「タイに生産拠点が有る取引先の要請を受け、海外進出に向けた現地調査を実施中。1、2年内には自社も現地で生産を始める予定(建設・鉱山機械製造業)」「インキ、刷版用紙等、印刷に必要な資材の多くが値上がりし、採算が悪化(印刷業)」

【卸売業】「取引先が海外での生産拡大や部材の現地調達を進めており、自社の受注が減少(服飾付属品卸売業)」「牛肉は、放射能汚染の心配がない九州産の需要が堅調(農畜産物卸売業)」「漁獲量が前年比約2割増加。需給が緩和され、仕入価格が低下(水産物卸売業)」

【小売業】「気温の低下に伴い、コート等冬物衣料の売上が伸びている(商店街)」「原発事故から約9カ月が経ち、風評被害の影響が緩和され、売上が持ち直している(ギフト専門店)」「円高により輸入原材料の価格上昇が幾分抑えられている(菓子小売業)」

【サービス業】「タイ洪水は一時期と比べ、事態が収束しており、年末年始における荷動きの回復が期待できる(運送業)」「忘年会の売上が期待ほど伸びていない(旅館)」「来年4月から、条例で幹線道路沿いの建築物に耐震診断が義務付けられるため、診断の依頼が増加(不動産管理業)」

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
7月	▲40.0	▲45.8	▲32.9	▲47.3	▲35.1	▲45.9
8月	▲36.5	▲48.4	▲28.1	▲35.4	▲38.9	▲35.5
9月	▲39.6	▲38.2	▲33.5	▲34.7	▲45.8	▲42.8
10月	▲34.3	▲30.7	▲26.2	▲38.8	▲37.6	▲39.4
11月	▲35.5	▲30.1	▲29.2	▲32.9	▲44.1	▲38.0
12月	▲34.9	▲34.0	▲24.8	▲35.9	▲42.5	▲37.7
見通し	▲35.8	▲38.3	▲30.3	▲36.8	▲36.7	▲38.6

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI